

手回し式計算機(キーボード型)

ちょっと暗算では難しい計算をするとき、電卓を使うか、もしくはスマートフォンや携帯電話に入っている計算機機能を使う方も多いでしょう。私の隣の席では、時折、そろばんをパチパチやっている学芸員もおりますが…。

そんな計算するための道具は、これまでさまざまなものが作られ、使われてきました。私は現役で使ったことはありませんが、タイガー計算器に代表される手回し式計算機を使っていたという方もいらっしゃるでしょうし、使ったことはなくても、「あれでしょ、ぐるぐる回して、チーンというやつでしょ」という方は多いかもしれません。

ただ、タイガー計算器を実際に使ってみると、かけ算や割り算をするのにはいいのですが、足し算や引き算をするのには向いていません。というのも、小さなレバーをひとつずつ動かして数字をセットするのが面倒で、いろいろな数を足し合わせるのにひとつひとつレバーを動かしてセットするのは非常に時間がかかることなのです。ところが、かけ算は、かけられる数をセットした後、かける数の回数分ハンドルを回すことで計算され、さらにハンドルを回す回数を減らす工夫もいろいろとあるので、計算しやすいのです。

これに対して、このキーボード型の手回し式計算機は、足し算や引き算も簡単にできる計算機なのです。非常にたくさんのキーがあってややこしそうですが、これは各桁に1~9の数字のキーがあるからです。例えば、右から2列目の5と、右端の列の3を押すと、「53」を表わします。そして右側手前のハンドルを向こう側から一周回すと、53が足されます。数字を入れてハンド



キーボード型手回し式計算機



昔のレジスター

ルを向こう側から回すと足し算、手前側から回すと引き算になります。

やがてこのタイプの計算機で、ハンドルを回すのにモーターを使う電動式の計算機が現われ、その計算機の下にお金を入れる引き出しが付いたレジスターが登場しました。私が子どもの頃には、近所の店でこのようなレジスターを使っていたのを憶えています。

長谷川 能三(科学館学芸員)